

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 10 No.20 2008年11月15日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ライフサイズ、日立ハイテク、1080p 対応ビデオ会議システム、ソフトウェア型ビデオ会議システム、ユニファイドコミュニケーションとの連携などを日本市場向けに発表



720p/1080p 対応 LifeSize Room 200

ライフサイズ・コミュニケーションズ株式会社(東京都新宿区)と株式会社日立ハイテクノロジーズ(東京都港区)は、ビデオ会議システム専用端末や PC ビデオ会議システムの新製品、インフラ製品の機能拡張など 10月24日に発表した。製品出荷は11月中旬より開始予定。

今回発表された専用端末の新製品は「LifeSize Room 200」、「LifeSize Conference 200」、「LifeSize Team 200」。「他社のビデオ会議システムも HD の対応を進めているが、当社の HD 製品は、他社よりも低コストで導入しやすい価格帯に設定している。また HD に伴うネットワーク帯域への負荷も抑えている。」(ライフサイズ・コミュニケーションズ)

LifeSize Room 200 は、従来の「LifeSize Room」よりも若干小振りサイズの筐体で、LifeSize Room でサポートされていた 720p30 フレーム/秒対応に加え、新たに 1080p30 フレーム/秒と 720p60 フレーム/秒に対応(720p は、1280×720 解像

度、1080p は、1920×1080 解像度)した。

また使用する帯域は従来機種では、720p30 フレーム/秒の映像に対して 1Mbps 必要であったが、今回の新製品では 768kbps での通信も可能になった。また 720p60 フレーム/秒は、1.1Mbps、1080p30 フレーム/秒は、1.7Mbps で可能。

「新製品にはより強力なシステム ASIC を採用したためビデオ映像のエンコード/デコード処理能力や遅延も従来の機種の数倍のパフォーマンスアップになっている。加えてインプット/アウトプットも高速なスループットを実現している。フル HD を含めた高品質な映像ニーズに十分対応できると考えている。」(ライフサイズ・コミュニケーションズ)

LifeSize Room 200 の内蔵 MCU(多点接続装置)は、6 地点フル HD 多点ビデオ会議に対応。VAS(ボイスアクティベートスイッチ、音声切り替え)と画面分割(Continuous Presence)が可能。画面分割は同時に 4 拠点まで表示可能だ。発言者の映像に合わせて、Microsoft Excel や Word などのデータの表示(デュアルビデオ、H.239)も 720p30 フレーム/秒で可能になっている。その他デュアルモニター/カメラ、デュアル MicPod などに対応。



LifeSize Conference 200

一方 LifeSize Conference 200 は、LifeSize Room 200 をベースに、顧客のニーズに合わせて、ディスプレイ、カメラ、テーブルなどカスタマイズができるテレプレゼンスシステム。

3 ディスプレイが標準。720p30 フレーム/秒、1080p30 フレーム/秒、720p60 フレーム/秒に対応した。「他社製のテレプレゼンスシステムよりも価格競争力は高い上に、使用する帯域幅においても 1/3 で利用可能だ。」(ライフサイズ・コミュニケーションズ)

一方 LifeSize Team 200 は、720p30 フレーム/秒に対応した HD ビデオ会議システム。同等レベルのシステムに比べ半額以下で、デュアルモニター/カメラ、デュアル MicPod、多地点接続装置機能を備える。多地点接続機能は、4 地点同時接続及び画面分割が可能。「LifeSize Room 200 に対して性能と機能を若干抑えた製品 (dilutive product) という位置づけと言える。」(ライフサイズ・コミュニケーションズ)



720p 対応 LifeSize Team 200

今回専用端末の新製品の発表の他に、「LifeSize Multipoint Extension(ライフサイズ・マルチポイント・エクステンション)」ソフトウェアの提供開始を発表した。LifeSize Multipoint Extension は、パソコン、ウェブカメラ、ネットワーク接続があれば簡単にビデオ会議ができる。テレビ会議の録画や Microsoft Outlook との統合、ウェブを使用したスケジュール設定、ウェブ放送なども可能だ。専用端末とソフトウェア型ビデオ会議の混在会議行える。

さらに IP テレフォニーとの連携強化も発表した。同社のシステムは、現在 Microsoft OCS、Cisco Call Manager、Siemens HiPath、ShoreTel Shoreware を始めとする主要なユニファイドコミュニケーションシステムとの相互接続を実現し

たという。「今後は、Microsoft Outlook によるスケジュール設定もサポート予定だ。これによりビデオコミュニケーションを企業環境内に統合する際の柔軟性を大幅に高めることが出来ると思う。」(ライフサイズ・コミュニケーションズ)

専用端末の新製品の価格はオープンプライスだが、日立ハイテクノロジーズによると参考価格としては、LifeSize Room 200 が 360 万円程度、LifeSize Conference 200 が 1200 万円から、LifeSize Team 200 は、250 万円程度になると予想する。ちなみに、同社では、MCU を内蔵していない 720p/30 フレーム秒のみ対応したエントリーモデルである「LifeSize Express」を 114 万 8000 円(税別)で提供している。



LifeSize 社
CEO クレイグ・マロイ氏

ライフサイズ・コミュニケーションズは、米ベンチャー企業として 2003 年に HD ビ

デオ会議システムの開発を目的に設立、2005 年にビデオ会議市場初の 720p/30 フレーム秒対応の HD ビデオ会議システムを発表した。

専用端末だけでなく、MCU や H.320 ゲートウェイ、NAT/ファイアーウォール越え装置、ビデオ会議統合管理ソフトウェアなどインフラ製品も拡充している。

日本を含め世界 13 ヶ所に事業所を設置。顧客は 4,000 社以上、今までの出荷台数は 15,000 台を越えた。売上は、年率 150%以上で伸びており、最近ではシーメンスなどとの提携もある。またイメージ処理、通信プロトコル、ソフトウェア、カメラなどで 45 件以上の特許を既に取得あるいは出願中という。

日立ハイテクノロジーズとは 2005 年 11 月より日本国内販売で提携、また 2007 年には日立ハイテクノロジーズは

総販売代理店としてその提携を強化拡大している。

そして今年になり日立ハイテクノロジーズでは、ライフサイズのビデオ会議システムをベースに自社ブランドのビデオ会議システムを開発した。テレプレゼンスシステム「Ripple(リップル)」の他、50インチプラズマディスプレイ1台と台(ローアバウトタイプ)を組み合わせた「ハイテクビジョン Solo」、また2台搭載型の「ハイテクビジョン Duo」をそれぞれ発表した。Rippleは、京都工芸繊維大学新世代オフィス研究センター仲隆介教授と協同で、同室空間に近い自然な一体感を創出する遠隔会議環境を開発した。これらの新製品は、10月に開催された日経BP社主催のIT Pro Expo 2008 Autumnで展示された。

「日本国内では既に200社以上のお客様にこのライフサイズのシステムをご導入いただいた。100端末以上の導入事例もある。HDビデオ会議で会議室利用のみならず遠隔教育などの利用が広がり、市場はさらに拡大すると期待している。当社もそういった市場拡大に対して、ソリューションの開発やサポートなどを行うハイテクビジョンテクノセンターを自社で設立した。日本市場でのライフサイズのシェア20%を目指しながらビデオ会議システムの普及拡大に力を入れていく考えだ。」(日立ハイテクノロジーズ)

ポリコムジャパン、HD Voiceに対応したIP音声会議システム2機種発表

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、SIP対応IP音声会議システム2機種「Polycom SoundStation IP 7000」と「Polycom SoundStation IP 6000」を新たに10月9日より発表、同日販売開始した。価格はオープンプライス。

Polycom SoundStation IP 7000は、役員会議室や大会議室、Polycom SoundStation IP 6000は、中小規模の会議室に適しており、同社のPolycom HD Voice技術や新しいデザインを採用している。

Synergy Research社が最近発表したVoIP調査によると、今年導入される新しい電話回線のうち73%以上がIP回線であるという。またIDCではVoIP電話機の導入が2007年に

比べ30%増加すると予測している。ポリコムはVoIPが拡大する傾向に対して今回SoundStation IP 7000とSoundStation IP 6000を発表、IP音声会議システムのラインナップを強化したことになる。



SoundStation IP 7000



SoundStation IP 6000

SoundStation IP 7000は、大型の高解像度ディスプレイを搭載。最大22KhzのHi-Fi音声をサポートし、マイクからおおよそ6m離れた話者の音声も集音することが可能。またデージーチェーン(複数の機器を数珠つなぎ)で2台接続することでさらに集音範囲がひろげ、複数の通話制御ポイントの設定も行える。あるいはオプションの拡張マイクを使うことでも集音範囲を広げることができる。

さらに企業のLDAPや他社製のアプリケーションとの統合

ができるXHTMLマイクロブラウザを搭載。たとえばユーザは、会議アプリケーションを使用して、会議の参加者名を表示し、会議中にかかってきた電話を音声会議に追加、削除、ミュート、保留にすることができる。

その他 PoE(Power over Ethernet)機能によって AC 電源がなくとも LAN があれば SoundStation IP 7000 への電源供給が可能。ただし、PoE は、SoundStation1台を使用した場合に限る。2 台ダイジーチェーンした場合は AC 電源モジュールが必要になる。

一方、SoundStation IP 6000 は、最大 14Khz の音声品質をサポートし、3.6m の範囲まで集音できるマイク。オプションで拡張マイクも提供。多言語に対応したディスプレイを搭載し、さまざまな通話情報を表示することができる。PoE にも対応。

SoundStation IP 7000 は、今後 Polycom HDX シリーズビデオ会議システムとの統合も予定している。

SoundStation IP 7000 と SoundStation IP 6000 は、3Com、BroadSoft、Digium、Interactive Intelligence、Sylantro など 25 社以上の Polycom VoIP Interoperability Partners(VIP、相互接続を保証した VoIP 製品を提供するポリコムパートナー)の SIP ベースの通話制御プラットフォームで稼働する。

ポリコムジャパン、カラーディスプレイ、HD Voice、ギガビットイーサネット搭載の VoIP 電話機を発表、電話受付交換システムとしての活用可能

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、Polycom SoundPoint IP シリーズの新製品「Polycom SoundPoint IP 670」VoIP デスクトップ電話機を 10 月 9 日発表、同日販売開始した。シリーズの中ではハイエンド機種にあたる。価格はオープンプライス。

Polycom SoundPoint IP 670 は、SIP 対応のアプリケーションを搭載したデスクトップ電話機で、カラーディスプレイを搭載し、Polycom HD Voice 技術、ギガビットイーサネット(GbE)接続機能を提供する。

Polycom SoundPoint IP 670 は、6 回線をサポートしており、

テキストメッセージ、在席状況の表示など SIP を使った機能を利用できる。また背景色は、14 色用意され、会社のロゴなどを背景として入れることもでき、カスタマイズが可能。XHTML マイクロブラウザも搭載している。



Polycom SoundPoint IP 670

「SoundPoint IP カラー拡張モジュール」により、Polycom SoundPoint IP 670 電話機のカラーディスプレイを拡張できる。拡張モジュールは、14 個の多機能ラインキーを備え、回線の登録、通話状況の表示、短縮ダイヤル、DSS(内線ワンタッチ呼出)/話中表示(BLF)キーなどを設定できる。

また SoundPoint IP カラー拡張モジュールは、3台まで Polycom SoundPoint IP 670 に接続することが可能。電話受付や秘書業務向けソリューションとして「カラーアテンダントコンソール」を提供できる。このソリューションでは、最大 34 件の回線登録、47 回線の BLF の表示、24 回線での同時通話をサポートする。これにより、電話受付係は、PC の前にいなくても在席状況を確認できるとともに、簡単に着呼をモニタリングし、着信電話の迅速な対応、確認、転送ができる。

Polycom SoundPoint IP 670 は、3Com、BroadSoft、Digium、Interactive Intelligence、Sylantro など 25 社以上の Polycom VoIP Interoperability Partners(VIP、相互接続を保証した VoIP 製品を提供するポリコムパートナー)の SIP ベースの通話制御プラットフォームで稼働する。

ビジネス動向-海外

Vidyo 社の H.264/SVC ベースの技術を、 日立コミュニケーションテクノロジーが採用

Vidyo(ヴィディオ)社は、株式会社日立コミュニケーションテクノロジー(東京都品川区)が Vidyo 社の技術を組み込んだ製品を日本で発売することを発表(米国現地時間 11 月 3 日)した。

日立コミュニケーションテクノロジーは、エンタープライズ市場向けの高品質ビデオ・コミュニケーション・ソリューション開発に注力しており、Vidyo 社の「Vidyo Technology(ヴィディオ・テクノロジー)」技術を活用することで、さらに市場での競争力の高いソリューションの提供を目指したいと考えた。

Vidyo Technology は、Vidyo 社が開発した H.264/SVC ベースの映像技術。H.264/SVC は、映像パケットなどの遅延や障害などに対してエラー耐性を高めたところに特長のある符号化方式。一般的には数%のパケットロスがネットワーク上で発生するだけでも映像品質に影響がでる場合が多いが、Vidyo Technology を活用すると仮に 20% のパケットロスが発生しても安定した映像通信が可能であるのが特長のひとつ。

今回の日立コミュニケーションテクノロジーの採用に加え、Vidyo 社は最近同社の製品を販売する第一番目の国内販売会社との提携を行ったところ。現在日本事務所の開設準備を行っており、ビジュアルコミュニケーションへの期待が高まる市場で Vidyo 社の足場を固めたいと考えた。

セミナー・展示会情報

<国内>

低コストで、小さな拠点までくまなくカバーする ビジュアルコミュニケーションとは? Web 会議システム IC3 紹介セミナー

日時:11 月 20 日(木) 15:00 - 17:00

会場: キヤノンソフト情報システム 東京支社(池袋)

主催: キヤノンソフト情報システム株式会社

詳細・申込:

<http://www.canon-js.co.jp/seminar/detail.cfm?no=1109>

*ポリコム社製テレビ会議システムと連携できるオプション製品をリリースに先駆け紹介。

環境関連法規制対策は万全ですか?

グリーン IT による解決策をご紹介します。

日時:11 月 25 日(火) 13:00~18:00(受付開始 12:30~)

会場: 大塚商会 本社ビル 3 階 301 会議室

主催: 株式会社大塚商会

協賛: 富士通エフ・アイ・ピー株式会社 / クオリティ株式会社 / ポリコムジャパン株式会社 / ジョンソンコントロールズ株式会社
詳細・申込: <http://event.otsuka-shokai.co.jp/08/1125green/>

ポリコム 新デモセンター内覧会

日時:11 月 27 日(木) 14:00~ (開場:13:30)

会場: ポリコムジャパン株式会社

(東京都千代田区紀尾井町 6-12)

主催: ポリコムジャパン株式会社

登録締切:11 月 21 日(金)

詳細・申込: <http://www.polycom.co.jp/event/081127/>

無料 Web セミナー: WebEx をさらに活かすマイク スピーカー活用術 ~ ヤマハ会議用マイクスピーカー と WebEx のご紹介 ~

日時:11 月 27 日(木)14:00-15:00

会場: Web セミナー

主催: ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社

詳細・申込:

http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar_112708.html

*参加者へプレゼント:参加者には「PJP-25UR」や「ヤマハロゴ入りポーチ」当たる。

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

サンフランシスコで開催された VoiceCon と IMTC Forum に参加し、本日 15 日の夕方成田到着の便で帰国いたしましたので、11 月 15 日号定期レポートの発行は、夜になり、申し訳ございませんでした。

ユニファイドコミュニケーションが両方とも大きなテーマでしたが、VoiceCon では UC の有効性を力説した基調講演やセッション、展示も UC 関連の展示が中心でした。ポリコムでは最新の IP 電話機や Polycom TPX のデモ展示、シーメンスでは LifeSize の製品も展示されました。IBM、HP、Avaya、マイクロソフトなどの UC も興味を引きました。

一方、IMTC Forum でも UC がテーマでしたが、音声やテレビ会議に関連した技術セッションが多く、HD の次は 4K 映像か、フレームレートか、という議論や、フルワイドバンドの G.719 とは何か、現在 ITU-T で議論中の AMS とは何か(まだコンセプトベース)、あるいは最近注目されてきた H.264/SVC、H.264/MVC などの概要と H.264 の今後の動き、その他テレビ会議市場がブレークしない要因は何か歴史から検証、テレプレゼンスはローエンドへの浸透とホームユース系への動きが今後の大きな流れかなどここでは書き尽くせませんが非常に興味深い内容でした。時差ぼけで昼間は睡魔に負けそうでしたが。。次号も宜しく願い致します。

CNA レポート・ジャパン 代表 橋本 啓介